

長崎県ミニバスケットボール連盟 2007 4月以降のルール・審判マニュアル変更点

県ミニ連 審判部
文責 桑田

※以下の文章は、日本ミニ連より通達があった変更点を長崎県ミニ審判部で独自に書き直したものです。よりわかりやすく、より具体的にと意識したため、やや文体が偏ったものになっている場合もあります。また、この他にも名称の細かい変更や、T Oがブザーを鳴らすタイミングの変更も行われています。県ミニ連のHPに、ルールブックからの抜粋が掲載されますので是非ご確認下さい。

	ルール改正点	旧ルール	審判長よりの解説
①	30秒オーバーが、「リングに当たるまで」に変更になった。また、30秒のブザーが試合を止めることがなくなった。	シュートをすればリセット。30秒ブザーが鳴れば状況にかかわらず試合ストップ。	一般ルールと同じ取り扱いになった。 (ただし一般は24秒、カットボールは継続) 30秒でシュートできなかつたら、即成立。 投げたシュートが空中にある間にブザーが鳴ったら、 ①そのシュートが入ればカウント。 ②そのシュートがリングに当たったらそのまま試合続行。 ③そのシュートがエアボールでも守りチームが確保できれば試合続行。 ④そのシュートがエアボールで、攻めチームがリバウンドに絡む→30秒の成立 ※間違えて30秒がリセットされても、基本的にはそのまま試合を続行させる。
②	チームファールが、1Q4回までとなった。	前半・後半で7回ずつ	一般ルールと同じ取り扱いになった。 5回目のファールからは全てフリースロー。
③	第2延長『サドンデス』の規定が無くなった。	延長で同点の場合は、2点先取の決定戦を行う。	3分間の延長戦を、回数に制限無く繰り返すことになった。 各延長にタイムアウト1回ずつ。チーム・個人ファールはそのまま継続となる。 ※延長は出場枠の規定外なので、メンバーチェックの必要はない。
④	4Qで、タイムアウト直後であればフリースローシューターを交代させることができるようになった。	認められなかった。	全員交代等に対応するための新ルール。 フリースロー2本目が決まってからタイムアウトが取れる訳ではない。
⑤	フリースロー時は、審判がシューターにボールをトスするまでは、タイムアウトを請求できることになった。	ルール上はファールの前に予約しておかなければ取れなかった。	試合の流れを考えてのタイムアウトも認めようとするルール。ただし、4Qで交代がある場合は、請求の時点でコーチが事前に申し出ておかなければならない。
⑥	スコアシートが、縦書きの新様式に変更された。	ミニ独自のB4版	一般とはほぼ同様のスコアシートとなった。 記入そのものは今までのシートより簡単。 ただし、本県では1Qと3Qは赤のボールペンで記入することを基本とするので注意が必要。 ※県ミニ連HPに、シート原本を掲載。
⑦	ショット動作は、「ショットしようとしてしようとして腕を上上げる動作をするためにプレーヤーがボールを片手または両手で持ったとき」に変更された。	これまでは「ボールを片手または両手で持ち、ショットしようとして腕を上上げる動作を起こしたとき」	ミニルールブックに記載はないが、一般ルールに準じてミニでもこの変更を取り入れることが全国審判長会議で確認された。 きわどい現象において、カウントワンショットやフリースローと判定するケースが増えると思われる。
⑧	ボールを受け取って、片足で床に下り、ひと続きの動作で踏み切った後、次につけることができる足は、どちらの足でもよい。	もう片方の足(第2の足)の記述があった。	一連の動きであれば、『ケンケン』でもOKということ。

レフェリー上のマニュアル変更点

	マニュアル改正点	旧ルール	審判長よりの解説
	5秒オーバーに関して、はっきりとゼスチャー(ビジブルカウント)を示すことになった。	必要なときは、黙って秒数を数える。	フリースロー時も同じ。 近接して守り始めた時点を明確に示すこと。 ※スローインに関しては、近接されていなくても5秒が成立するので注意。